

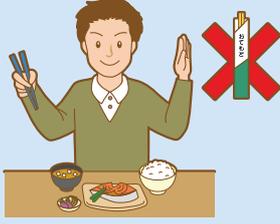
区民1人1日約100gのごみ減量を達成することで区全体では年間約10,000t (26年度比18.6%)のごみを減らすことができます。

例えば

リデュース (発生抑制)

<p>麦茶のパックの水分をしぼって捨てる</p>  <p>麦茶のパック 1個 <b>20g</b></p>	<p>レジ袋を断る</p>  <p>3Lサイズの レジ袋1枚 <b>10g</b></p>	<p>包装紙・袋を断る</p>  <p>60×60センチの 包装紙1枚 <b>20g</b></p>	<p>トレイを使った商品を買わない</p>  <p>20×12センチの トレイ1枚 <b>3g</b></p>
--	--	--	--

リユース (再使用)

<p>メモなどに裏紙を使う</p>  <p>A4版のOA用紙 1枚 <b>4g</b></p>	<p>塗り箸を使って割り箸を使わない</p>  <p>割り箸 1膳 <b>4g</b></p>	<p>再利用できる皿を使って紙皿を使わない</p>  <p>直径15センチの 紙皿1枚 <b>7g</b></p>	<p>ふきんを使ってウエットティッシュを使わない</p>  <p>ウエットティッシュ 1枚 <b>1g</b></p>
--	--	---	--

リサイクル (再生利用)

<p>雑がみやティッシュペーパーの箱を集団回収に出す</p>  <p>ティッシュペーパー 1箱 <b>40g</b></p>	<p>資源は分別して集積所回収に出す</p>  <p>ペットボトル1本 (500ml) <b>25g</b></p>	<p>使用済小型家電を拠点回収に出す</p>  <p>携帯電話 1台 <b>120g</b></p>
---	--	---

# 生ごみ減量の3つのポイント

- 平成 26 年度に実施した家庭ごみ組成分析調査によると、燃やすごみの 41.3%が生ごみで、年間約 13,400t と推計されます。また、食べられるのに捨てられてしまった「未利用食品」は 2.4% で、年間約 800t と推計されます。
- 生ごみ減量のポイントは、「①買いすぎない」「②作りすぎない・残さない」「③水切りをする」の3つが重要です。

## ポイント1 買いすぎない

冷蔵庫の中身を確認してから、買い物に出かけましょう。

腐らせてしまう可能性のある生鮮食品などは、必要な分だけ購入しましょう。

贈答品などで食べないものは、人に譲りましょう。

## ポイント2 作りすぎない・残さない

料理は、食べられる量を考えて作りすぎないようにしましょう。

残ったものは、小分けにしたり、冷凍庫などを利用して保存しましょう。

残ったものは、別のメニューにアレンジするなどの工夫をしましょう。

## ポイント3 水切りをする

野菜の皮は、水を吸収してしまうので、ぬらさずに捨てましょう。

三角コーナーなどを利用して水切りをしましょう。

ギュッと絞ってから捨てましょう。

### 水切りいろいろ～ギュッと絞ってスマートに！

手でギュッと絞る



びんでギュッと絞る



グッズでギュッと絞る



## ごみ減量のカギを握る「雑がみ」の分別

- 平成 26 年度に実施した家庭ごみ組成分析調査によると、燃やすごみの 16.7%が再利用可能な紙類で、年間約 5,400t と推計されます。中でも、「雑がみ」が 10.9%で、年間約 3,500t と推計され、再利用できる「雑がみ」は、ごみ減量のカギを握っています。

### 「雑がみ」ってなに？

「雑がみ」とは、再利用できる紙箱、コピー用紙、包装紙、パンフレット、カレンダー、封筒などの紙類です。「雑がみ」は分別をすれば資源として生まれ変わりますが、新聞・雑誌・段ボールなどと比べて分別がわかりにくいいため、リサイクルが進んでいません。

### 「雑がみ」っていつ出すの？

古紙回収は、新聞、雑誌類（雑誌・本・雑がみ）、段ボールを週1回地域の町会・自治会などが実施している「集団回収」により行っています。「雑がみ」は、雑誌類として古紙回収の日に出すことができます。

### 「雑がみ」はどうやって出すの？

紙袋に入れて出す、雑誌と一緒にひもでしばるなどの方法があります。

紙袋に入れて出す



### 「雑がみ」として出せないもの

カーボン紙や臭いのついたものなどは、「雑がみ」として再利用できませんので、「燃やすごみ」に出して下さい。

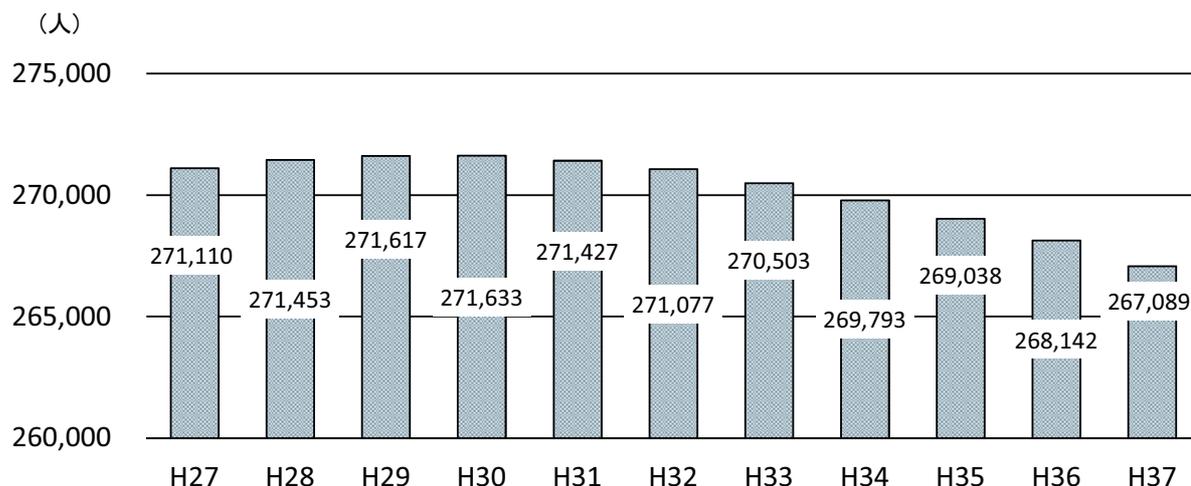
- ◆紙くず・使用後のティッシュ
- ◆シュレッダーくず
- ◆感熱紙（レシート、ファックス用紙）
- ◆写真・写真プリント用紙
- ◆金・銀・アルミコーティングされた紙（お酒、ジュースの紙パックなど）
- ◆防水加工された紙（紙コップ、紙皿など）
- ◆圧着はがき（ペリペリはがせるはがき）
- ◆カーボン紙（宅配便の複写伝票）
- ◆汚れ・臭いのついた紙（ピザ、洗剤、線香の箱など）

## 4 ごみ量推計

### (1) 人口推計

過去10年間の人口（外国人を含む）の動態を見ると、目黒区の人口は増加傾向にあります。今後の動向については、本計画での推計では、平成30年をピークとして逡減する見込みとなっています。

図6 人口推計（実績と推計）（一部抜粋・再掲）



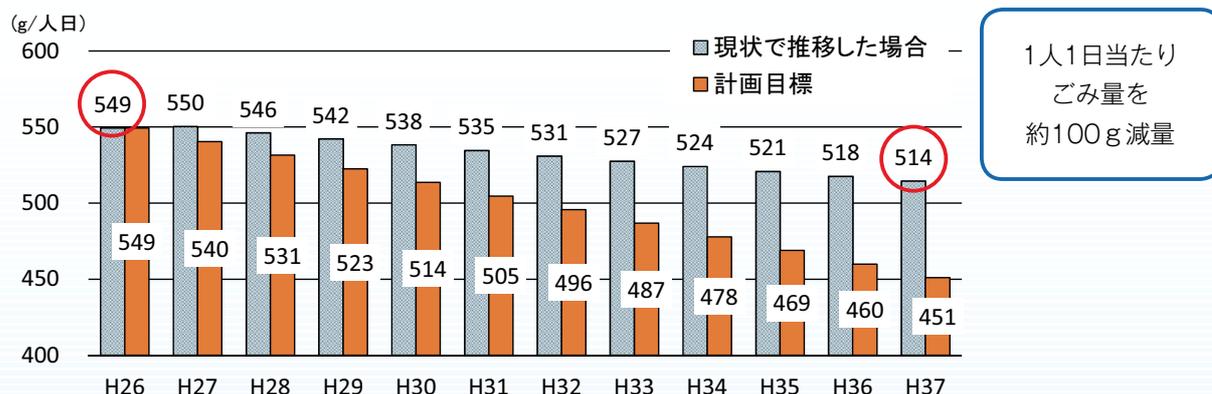
※実績値は、平成26年度までは10月1日時点、平成27年は7月1日時点の数値。

※推計値は、本計画において外国人を含めて推計人口を算定した。平成25年3月時点での区の人口推計値（外国人を含む）を基に、平成27年7月1日時点での実績値との差を係数化して各年の推計人口を算定した。

### (2) 現状及び目標を達成した場合のごみ量の推移

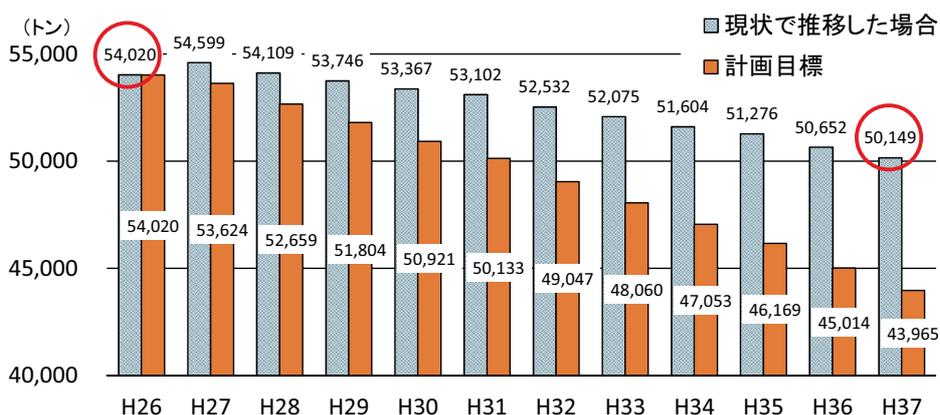
- ① 区民1人1日当たりのごみ量について、過去5年間（H22～H26）の実績をもとにした現状推移をみると、平成37年度に514g/人日になると推計されます。本計画では、平成37年度の目標を451g/人日として、平成26年度の549g/人日から、約100gのごみ減量に取り組みます。

図27 1人1日当たりごみ量の現状推移と目標達成時の比較



- ② 区全体のごみ量について、過去5年間（H22～H26）の実績をもとにした現状推移をみると、平成37年度に50,149tになると推計されます。本計画では、区民1人1日当たりのごみ減量目標と連動した参考指標として、平成37年度に43,965tをめざし、平成26年度の54,020tから、約10,000tのごみ減量に取り組みます。

図28 区全体ごみ量の現状推移と目標達成時の比較

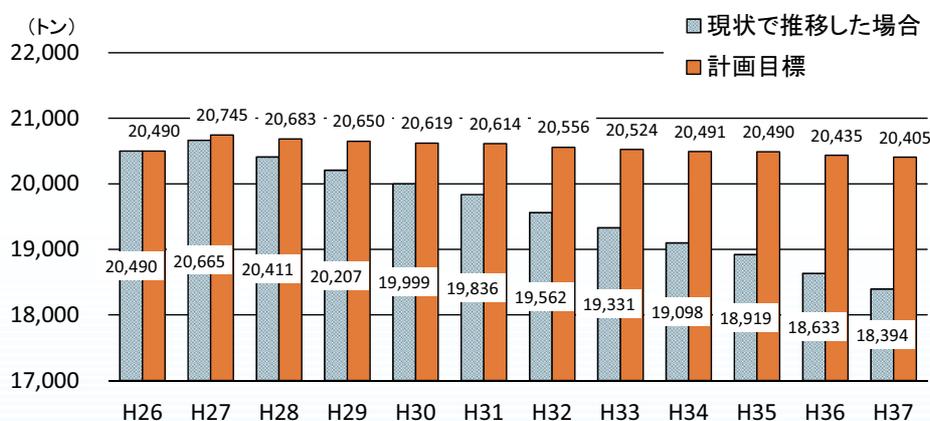


ごみ量を区全体で約10,000t減量

### (3) 現状及び目標を達成した場合の資源量の推移

資源回収量について、過去5年間（H22～H26）の実績をもとにした現状推移をみると、平成37年度には18,394tになると推計されます。本計画では、参考指標である区全体のごみ減量について、この約2割を資源化することを想定し、平成37年度の実績を20,405tと推計しています。

図29 区全体資源量の現状推移と目標達成時の比較



H26年度時点の資源量を維持